『題材名 MYマーク~MY-Tシャツを作ろう!』

学校名:高知県立高知東高等学校

教員名: 西 緑

学校紹介・特色

高知市内東に位置する本校は、各学年に総合学科(5クラス)と看護科(1クラス)を設置している。

総合学科では、個人個人にあった授業を選択できることを特色としている。1年次には芸術3教科(音楽・美術・書道)から必修選択。2・3年次には下図のような教科が100科目余りの選択肢の一つとしてある。2年間で美術系の授業を20単位選択する生徒もいる。その中には、経済的に困窮している生徒もおり、美術系の進学は叶わないが、高校で美術を学びたいという意欲的な生徒もいる。一方、試験がないという理由で選択してくる生徒もおり、講座内で力の差が大きい。1講座は、3名~19名である。

1 年次 2 年次 3 年次 素描a 2 単位 素描 b 4 単位 必修選択 音楽I 絵画 a 2 単位 絵画 b 4 単位 美術 I 2 単位 構成a 2 単位 構成 b 2 単位 書道 1 ビジュアルデザイン 4 単位

対象学年

3年 構成 b 17 名

題材設定理

与えられた絵をそのまま描くことは好きだが、構成を考えるのは苦手という生徒が多くなってきた。これは本校に限ったことではないと思われる。それは、『考えることを必要とする実体験が少ない。』ことが原因の一つといえる。『考えること』は『生きる力』に繋がる。大切な事である。Tシャツを作る楽しい作業の中に、いくつも『考えるPOINT』を入れ、課題を完成することで、『考えることを体験できる』ものにしてある。考える力はどの生徒も持っており、それを引き出すことができる題材の一つである。

準備するもの

- プリント・デザインカッター・カッターシート・色鉛筆・
- ・型紙(水につける必要のないもの)・マスキングテープ・Tシャツ・下書きペン
- ・アクリル絵の具(透明ソフト)・バインダー(ステンシル絵の具用)・ゴム手袋
- ・筆・スポンジ(3cm×3cmにカット)・パレット・新聞・ベニヤ板・画鋲

手 順

- ① デザインを考えるくその1>…プリント
 - 1. 自分の名前のマークをデザインする。

姓・名・フルネームOK!漢字・英文字・ひらがな・カタカナOK!

2. そのマークを組み合わせて別の形になるように考える。

(例: 縞模様・別の形になるなど)



考えどころ満載!

名前のマークは考えにくいため、何か の形から発想を広げるように助言を した。

(例:花びらの形・〇・△など)



②デザインを考える<その2>

- 1. ①の 1. 2. のデザインを使った T シャツのデザインを 一緒に考える。
- 2. 色計画も考えておく。
- ※生徒の希望により、今回は、そのマーク以外に画用紙 を使った1回だけ刷る版も使用可とした。

(使用しなくても良い)

③デザインを考える<その3> 『つなぎ』を考える。

ステンシルとして、スポンジで色付けする ため、しっかり繋がった型をデザインしな くてはいけない。

※ポトンと落ちる形や、ペラッと垂れる形には『つなぎ』をつけること。

イメージを考える!

どんなTシャツに仕上げ たいのか、イメージを広げ て考えよう!

※色でイメージは決まる!

空想する!

型紙を切って持ち上げたとき、ぴらぴらしたり、落ちたりしないか、考えてみること!

4型紙を切る

- カーボン紙で写し、デザインカッターで切る。
- ・カッターの刃の入れる角度や方向を考える。
- カーブは、紙を動かしたほう が綺麗に切れる。

⑤Tシャツを染める

Tシャツを新聞を貼った板に画 鋲でとめる。(ピンと張る)



下書き線ひく。色を作り、試しながらスポンジでつける。 (絶対水はつけない事!)



時々型紙をはぐり、色の着き方を確認する。マスキングの位置は大事。 色を重ねる時は下が乾いてから。



考えるPOINT

- ・絵の具の量に注意!(滲み防止)
- ・弱い型の場合、スポンジを動か す方向を考える。
- ・色は1色より何色か使う方が 美しい!

などなど考えよう!

⑤完成と鑑賞 他の人の作品から自分にはない感性や個性を知り、学ぶ。













MARIE YOUR WINDS



まとめ

型を置き、緊張しながら色をつける。その後、型をそっと持ち上げる。『わあ!綺麗!』という声があがる。この課題が成功した瞬間である。『自分のTシャツを染める』ことは興味を持たせやすく、ほぼ全員の生徒が前向きに取り組んだ。取り組む中で、デザインや作業を簡単にする方法など工夫する点も多く、生徒の持つ『考える力』を引き出すこともできた。また、本人たちも満足する作品が完成し、ほぼ全員が作品を持ち帰った。今はパソコンのソフトで簡単にTシャツプリントを行うこともできる。しかし、自分がデザインしたものを色々工夫しながら完成させた作品は価値が違う。それが『実体験』であり、『生きる力』に繋がるものである。課題は、組み合わせのデザインを簡単にOKしてしまった点。ここで考える時間を多く取るべきであった。